YASKAWA

インベスターズガイド
本編

注意事項

- 本資料は当社の理解促進を目的とし、主に初めてのアナリスト・投資家の方を対象に基礎的な内容で構成されています。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

安川電機とは

- モータを回し続けて１００年
- 産業や社会を支えるシステムづくりのお手伝い
- グローバルな競争力を持つ３つの製品
  産業用ロボット/ACサーボモータ/インバータ

産業用ロボット
MOTOMANシリーズ

ACサーボドライブ
Σ-Xシリーズ

安川インバータ
新シリーズ

© YASKAWA Electric Corporation

目次

1. 会社および事業の概要

2. 長期経営計画「2035年ビジョン」，
中期経営計画「Dash 35」

3. サステナビリティ

4. ソリューションコンセプト i³-Mechatronics

© YASKAWA Electric Corporation

１．会社および事業の概要

© YASKAWA Electric Corporation

安川グループ経営理念

創業の精神

当社は、創業者安川第五郎が、その父安川敬一郎の
「産業を興して国の恩に報ゆる」の志に基づいて、
大正４年（１９１５年）設立したものである。

安川 敬一郎

安川 第五郎

私たちの存在意義（パーパス）

当社グループの使命は、その事業の遂行を通じて
広く社会の発展、人類の福祉に貢献することにあります。
当社グループはこの使命達成のために、次の3項目を掲げ、その実現に努力します。

私たちの価値観（バリュー）

1　**品質**　品質重視の考えに立ち，常に世界に誇る技術を開発，向上させること。
2　**利益**　経営効率の向上に努め，企業の存続と発展に必要な利益を確保すること。
3　**市場**　市場志向の精神に従い，そのニーズにこたえるとともに需要家への奉仕に徹すること。

© YASKAWA Electric Corporation

プロフィール

（2026年2月28日現在）

*2025年3月1日から2026年2月28日までの連結会計年度

商　　号	株式会社安川電機 YASKAWA Electric Corporation
創　　立	1915年（大正4年）7月16日
本社所在地	福岡県北九州市八幡西区 黒崎城石2番1号
資 本 金	306億円
従業員数	連結 12,483名

売上収益	連結 5,421億円（2025年度*）
主な事業	●モーションコントロール （ACサーボ・インバータ） ●ロボット ●システムエンジニアリング

© YASKAWA Electric Corporation

事業の変遷

創業者
安川 第五郎

代表取締役会長兼社長
小笠原 浩
（2026年度5月～ ）

創立
1915年　1950年　1980年　1990年　2000年　創立100周年 2015年

電動機（石炭搬送）

システムエンジニアリング

電機システム（鉄鋼・紙・フィルム・プラント・上下水道）

1917年
三相誘導電動機を製品化

1958年
ミナーシャモータを開発

1977年
日本初の全電気式
産業用ロボットを開発

メカトロニクス分野にシフト

インバータ

DCサーボモータ

ACサーボモータ

産業用ロボット

液晶ガラス･パネル搬送ロボット

半導体向けロボット

環境ｴﾈﾙｷﾞｰ機器

医療･福祉機器

食品･農業向け機器

ソリューションコンセプト
i3-Mechatronics 推進
(ｱｲｷｭｰﾌﾞ ｽﾘｰ ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ)

※「メカトロニクス」はメカニズム（機械工学）とエレクトロニクス（電子工学）を合わせた造語で、当社が1972年に商標登録したもの

2035年ビジョン

コア領域

i3-Mechatronics を軸とする自動化領域

フィジカルAI市場

当社製品にAIを融合させ、自動化が困難だった領域で新たな自動化を実現

新ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ応用領域

基幹技術を核とした新規分野での自動化拡大

© YASKAWA Electric Corporation

事業セグメント別売上高構成比

システムエンジニアリング

売上収益　387 (億円)

【主要製品】
- 鉄鋼プラント用電気システム
- 港湾荷役用電気システム
- 上下水道用電気システム　など

鉄鋼プラント用
電気システム

港湾クレーン

その他

売上収益　203 (億円)

【主要製品】
- 物流サービス　など

ロボット

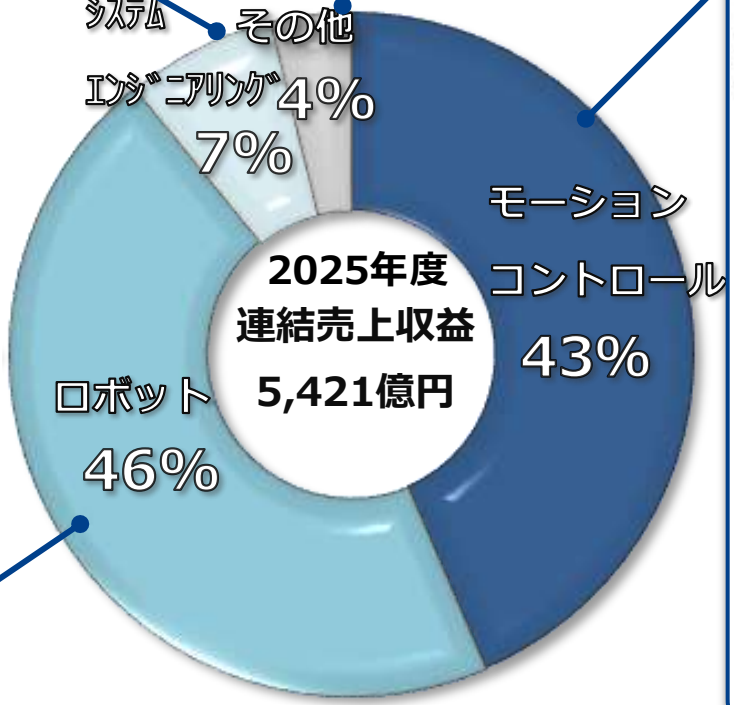
売上収益　2,470 (億円)

AIロボット
「MOTOMAN NEXTシリーズ」

人協働ロボット
MOTOMAN-
HC30PL

7軸アーク
溶接ロボット
MOTOMAN-
AR1440E

【主要製品】
- 産業用ロボット
  - アーク･スポット溶接･塗装用途向け
  - ハンドリング用途向け
- AIロボット、人協働ロボット
- 半導体製造装置用ロボット
- バイオメディカル用途向けロボット　など



モーションコントロール

売上収益　2,361 (億円)

➢ ACサーボ・コントローラ事業(51%)

AC サーボドライブ
Σ-X シリーズ

新マシンコントローラ
「MPX1310シリーズ」

YRMコントローラ「YRM1030」

【主な市場】
- 半導体・液晶製造装置・電子部品実装機
- 工作機械、射出成型機、金属加工機 など

➢ インバータ事業 (49%)

安川インバータGA700シリーズ

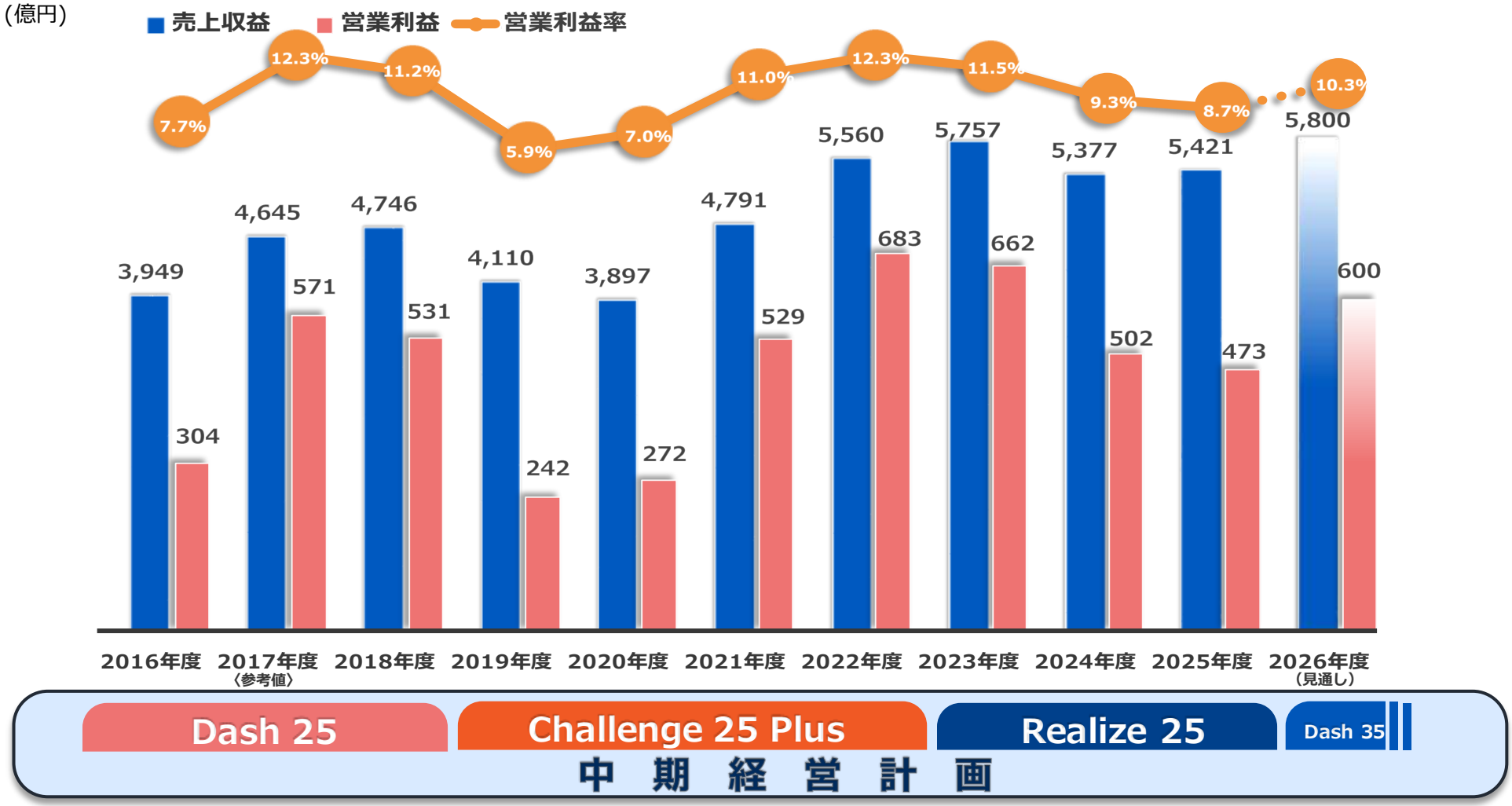
太陽光発電用
パワーコンディショナ
Enewell-SOL P3H

【主な市場】
- エレベータ、エスカレータ
- 産業用空調・繊維機械, 荷役クレーン など

© YASKAWA Electric Corporation

売上収益･営業利益推移（2016年度～2026年度見通し）

・**営業利益を最重要KGIと設定し、中期経営計画を3～4年ごとに策定**

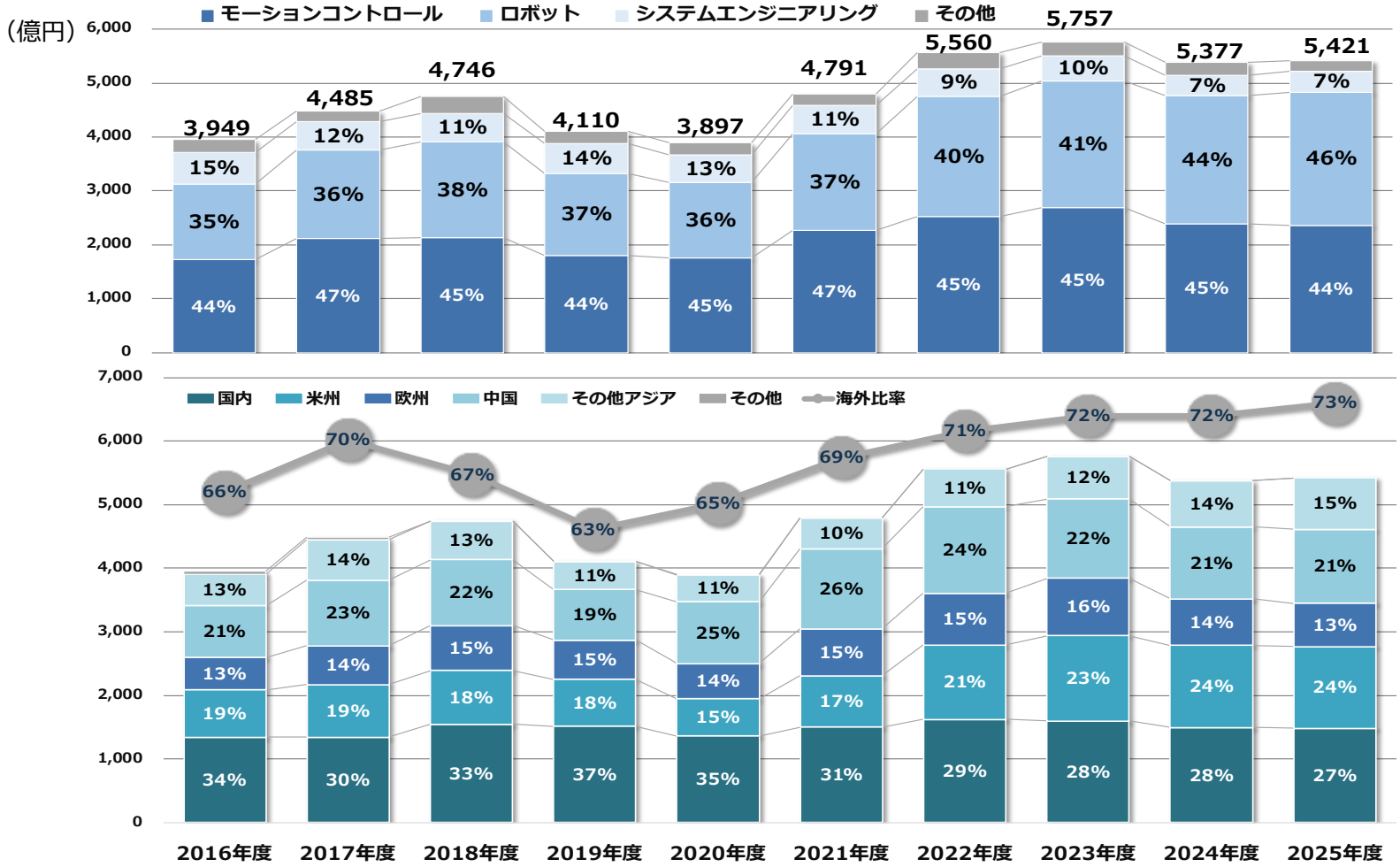


[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

© YASKAWA Electric Corporation

地域別・セグメント別　売上収益推移(2016年~2025年度)

・自動化・省力化、EV化の流れを受け、ロボットが拡大基調
・海外の成長市場における需要拡大を的確に捉え、海外売上比率が向上

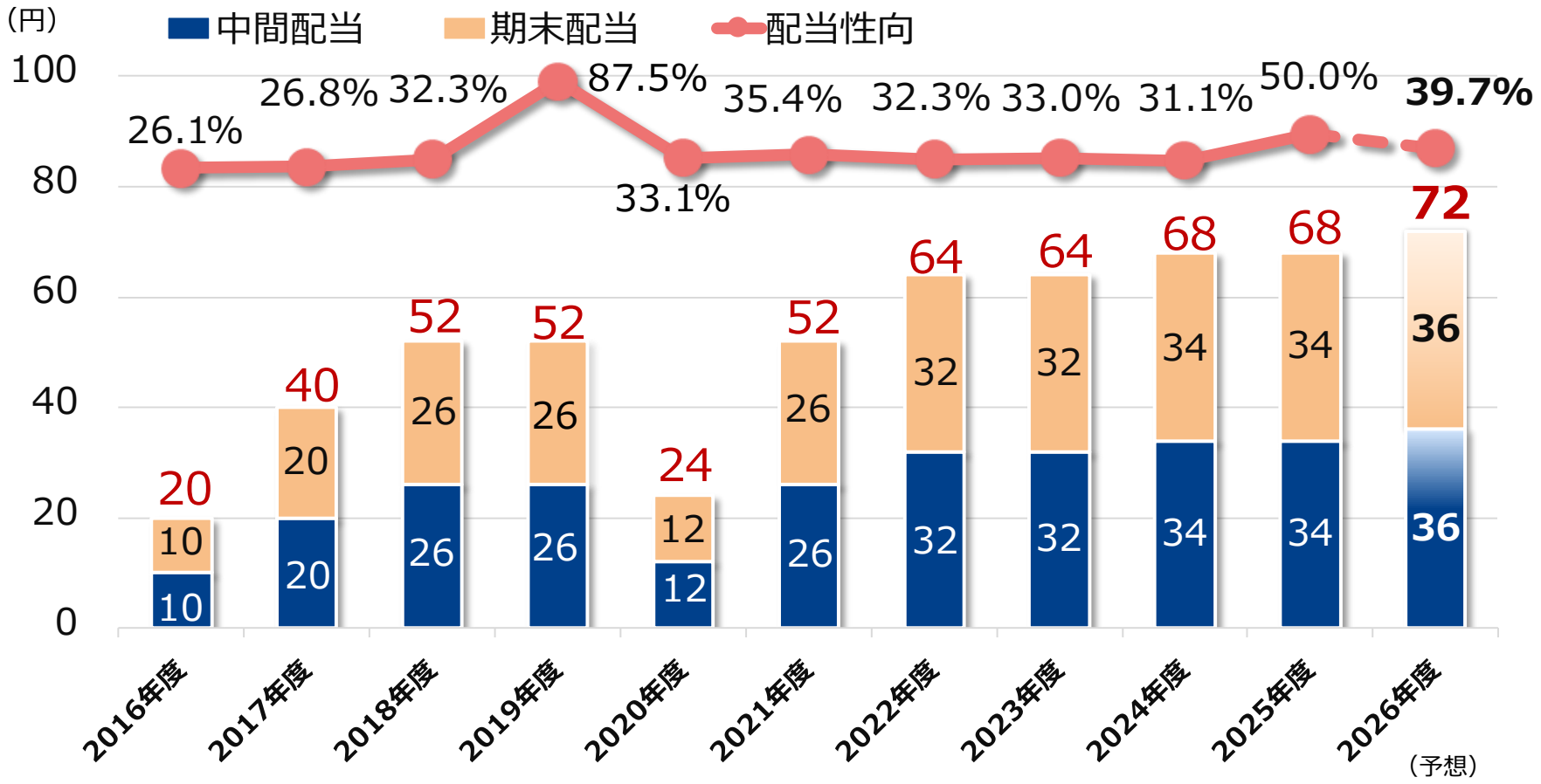


※2020年5月28日提出の有価証券報告書より、従来の日本基準に替えてIFRSを適用。比較分析を行うため前年度の数値もIFRSに準拠して開示。
※2017年度より決算期を３月20日から２月末日に変更。決算期変更の経過期間となる2017年度は、2017年3月21日から2018年2月28日まで。
※2022年度より地域別の情報（売上収益）の算出根拠を、従来の仕向地（お客さまの所在地）別から安川グループ各社の所在地別に変更。

© YASKAWA Electric Corporation

株主還元（配当金推移）

- **営業活動により生み出したキャッシュは、①成長投資、②株主還元、③従業員配分の三方向に効果的に投入**
- **株主還元は配当性向30%+αを目安に実施する方針**



© YASKAWA Electric Corporation

国内事業所・支店・営業所

■**本社（ロボット村※）/ 安川テクノロジーセンタ**
■**八幡西事業所**（ロボット工場）
■**八幡東事業所**
■**中間事業所**（ロボット工場）

※ロボット村は安川電機の登録商標

■**入間事業所**
（安川ソリューションファクトリ/ソリューションセンタ）

■**行橋事業所**
（ドライブセンタ/システムエンジニアリングセンタ）

■：事業所・研究所
●：支社・支店
▫：営業所・事務所

グローバルネットワーク

ビジネス拠点:約30ヵ国
生産拠点:13ヵ国25拠点

YASKAWA

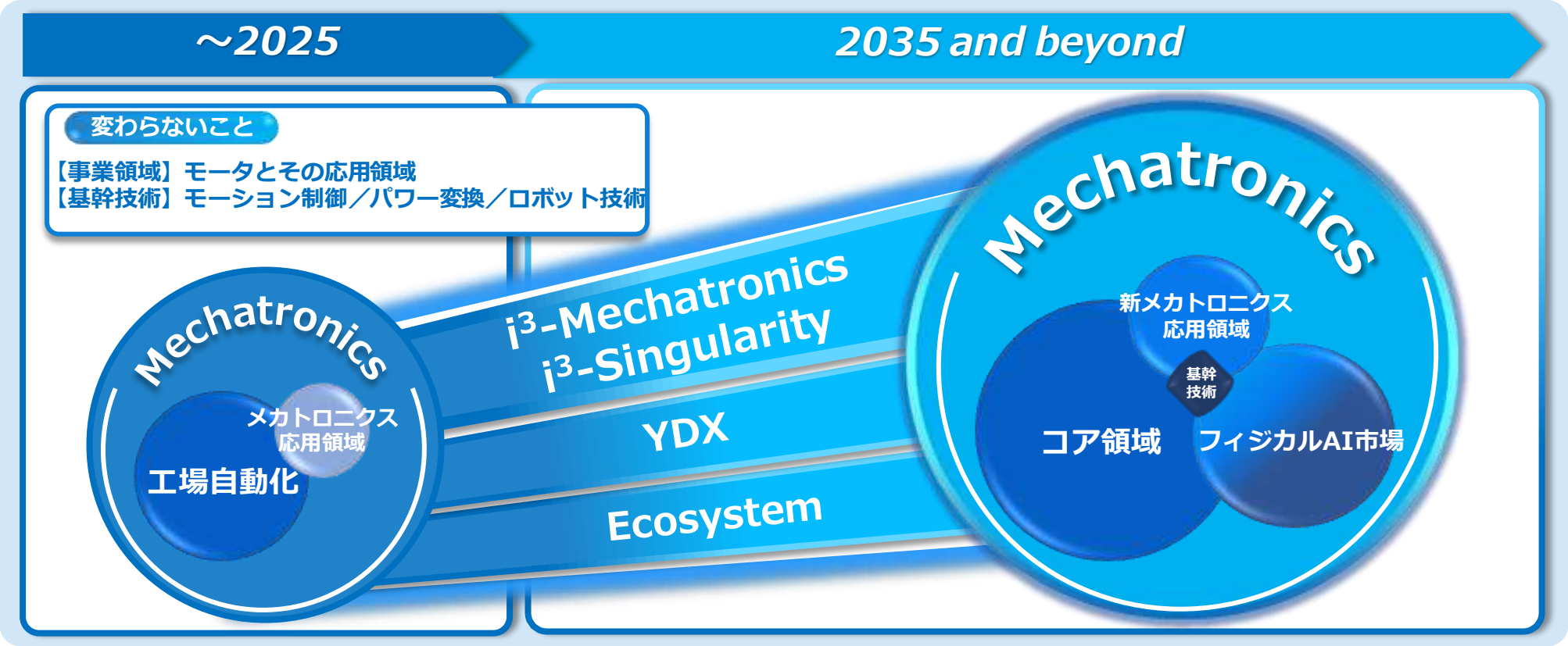
２. 長期経営計画「2035年ビジョン」
(2026～2035年度)

中期経営計画「Dash 35」
(2026～2029年度)

© YASKAWA Electric Corporation

安川グループの2035年ビジョン

技術革新によりMechatronics領域を拡大し
社会の持続的な発展に貢献する



コア領域

i³-Mechatronicsを軸とする
自動化領域

フィジカルAI市場

当社製品にAIを融合させ、自動化が
困難だった領域で新たな自動化を実現

新メカトロニクス応用領域

基幹技術を核とした
新規分野での自動化拡大

© YASKAWA Electric Corporation

2035年度の財務目標

営業利益率を重要KGIと置き、
ステークホルダへの還元の充実を実現する

		2025年度実績	2035年度目標
財務目標	営業利益率	8.7%	20.0%以上
	配当性向	50.0%	40.0%以上

© YASKAWA Electric Corporation

中期経営計画「Dash 35」の目指す姿と基本方針

コア領域の徹底した高収益化とフィジカルAI技術により新市場を創出する

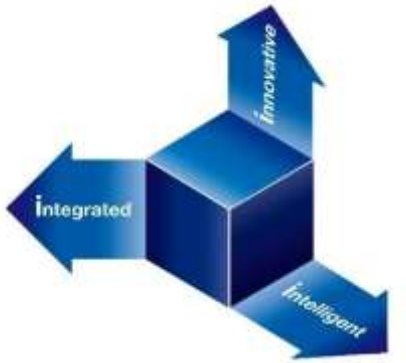
基本方針1 フィジカルAI市場の開拓

基本方針2 i³-Mechatronicsの実践拡大

基本方針3 世界一にこだわる新製品開発

基本方針4 新メカトロニクス応用領域の事業拡大

基本方針5 YDXの進化とi³-Singularity



i³-Mechatronics
i³-Singularity

© YASKAWA Electric Corporation

売上収益・営業利益目標

「2035年ビジョン」の実現に向け「営業利益」「営業利益率」を最重要KGIとし、2029年度に営業利益1,000億円、営業利益率15.4%を目指す

	2025年度 実績	2026年度 見通し	2027年度 目標	2029年度 目標
売上収益	5,421億円	5,800億円	6,000億円	6,500億円
営業利益	473億円	600億円	720億円	1,000億円
営業利益率	8.7%	10.3%	12.0%	15.4%

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

「財務資本戦略」の核となる指標

企業価値向上に向けた「財務資本戦略」を遂行する

		2025年度実績	2026年度見通し	2027年度目標	2029年度目標
経営指標	ROE※1	7.7%	9.6%	10.0%	**12.0%以上**
	ROIC※2	6.9%	8.5%	9.0%	**11.0%以上**
	配当性向	50.0%	41.9%	40.0%	**40.0%以上**

2026年度－2029年度 投資計画

累計投資額 ：**2,500億円** (対売上収益比率10%)
うち 設備投資 ：1,300億円
うち 戦略投資 ：1,200億円

※1 ROE = Return on Equity (自己資本利益率) =親会社の所有者に帰属する当期利益÷((前期末親会社所有者帰属持分 +当期末親会社所有者帰属持分)÷2)
※2 ROIC = Return on Invested Capital (投下資本利益率) =親会社の所有者に帰属する当期利益÷投下資本

© 2026 YASKAWA Electric Corporation

方針1　フィジカルAI市場の開拓

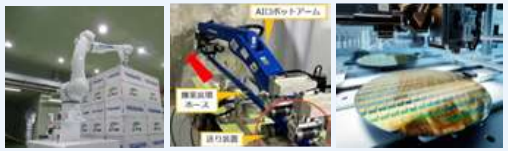
フィジカルAI市場を開拓し自動化領域を拡大させる

ロボットの自律化

MOTOMAN NEXT
（製造現場）

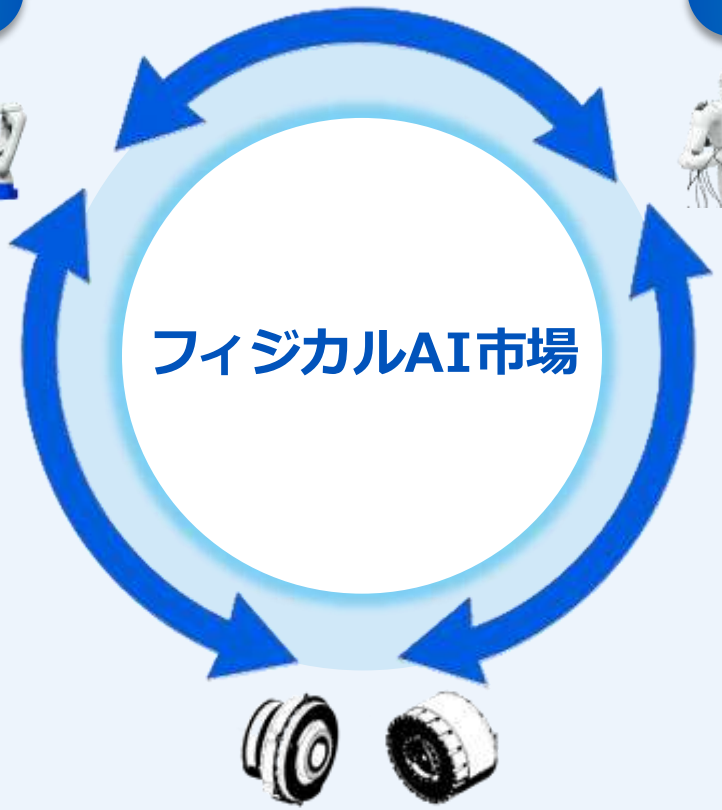
食品　飲料

農業　医療



物流　建築　半導体

自動車　オイル＆ガス　工作機械



状況判断・タスク計画

ヒューマノイドロボット
（製造現場以外）

変種変量生産　オフィス

ビル　病院

進化型アクチュエータ

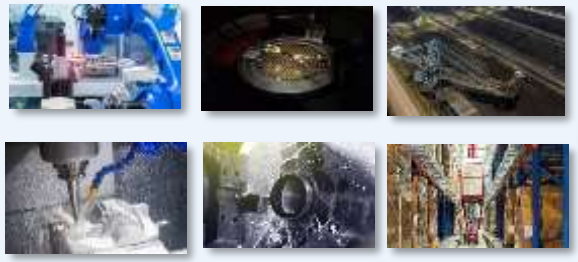
基幹コンポーネントポートフォリオ拡大

※当社では、「AIロボティクス」を「モーションとAIによる認識・判断」と定義しております。これは、i³-Mechatronicsの“integrated（統合的）”領域を更に広げるものであり、MOTOMAN NEXTはそれを具現化した製品となります。
「フィジカルAI」は、「当社製品とAIを融合させることで、これまで自動化が困難であった領域でのユー スケースを具現化するもの」と位置付けております。

© YASKAWA Electric Corporation

方針2. i³-Mechatronicsの実践拡大

蓄積したソリューション活用とスケールメリットによりお客さまを勝たせる



お客さまの経営課題解決

サービス品質の向上

- 顧客視点のサービス提供
- 品質データを製品開発に活用し徹底フィードバック
- 販売とサービス連携強化

蓄積したソリューション

- “コト”のデータ化
- 社内工場導入事例の応用

＋

コア製品の差別化

- テクノロジーセンタの徹底活用
- 地域に合った製品戦略

生産基盤強化による付加価値向上

- 量変動に強い生産
- 徹底した調達コストダウン
- 間接部門のスリム化

© YASKAWA Electric Corporation

方針3．世界一にこだわる新製品開発

コア技術×現場データ×AI活用のシナジーで世界一の技術を創出する

コア領域

フィジカル
AI市場

新メカトロニクス
応用領域

安川テクノロジーセンタ

―『世界一』を生み出す場所―

企業間共創

コア技術の進化

- ロボティクス
- モーション制御
- モータドライブ

ロードマップ

- お客さまの"コト"
- 市場のニーズ
- 社会課題の解決

産学連携

世界に誇るコア技術の集約

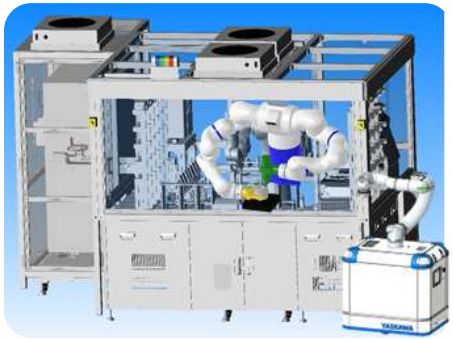
© YASKAWA Electric Corporation

方針4. 新メカトロニクス応用領域の事業拡大

メカトロニクス技術の応用とパートナ連携により自動化領域を拡大する

農業分野の自動化

農業



医療／医薬品分野への
プラットフォーム展開

医療

食品分野への
ロボット展開拡大

食品

AI活用 ＋

絶対的なフィジカル対応力で
新たな領域へ

＋ **パートナ**
連携

© YASKAWA Electric Corporation

方針5. YDXの進化とi³-Singularity

YDXの進化による強固な経営基盤の構築

サステナビリティ方針に基づく中長期的な経営目標の実現

安川グループ経営理念の理解深化を通じた実行力のある“One YASKAWA”の文化醸成

© YASKAWA Electric Corporation

3. サステナビリティ

© YASKAWA Electric Corporation

サステナビリティの推進

**社会のサステナビリティに寄与する取組みの強化に向けて、
サステナビリティ方針を策定し、公開　(2021年3月15日)**

サステナビリティ方針

私たちは、安川グループの経営理念である「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献すること」を基本的な考え方として、その実践を通じて持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めます。

1. 最先端のメカトロニクス技術によるイノベーション創出で、お客さまをはじめ社会への価値創造に貢献します。
2. 世界中のステークホルダーとの対話と連携を通じ、公正かつ透明性の高い信頼ある経営を実現します。
3. 世界共通の目標であるSDGsの達成を目指し、グローバルでの社会的課題の解決に取り組みます。

サステナビリティ推進の体系図

© YASKAWA Electric Corporation

サステナビリティ課題・目標（マテリアリティ）

新たに制定したサステナビリティ方針のもと、
マテリアリティを特定し、解決に向けた取組みを中期経営計画に展開

安川グループのマテリアリティ

事業を通じた社会価値の創造と社会的課題の解決

- i³-Mechatronicsを通じたパートナー連携で産業自動化革命を実現
- クリーンな社会インフラ構築と安全・快適な暮らしの基盤づくり
- オープンイノベーションを通じた新たな技術・事業領域の開拓

サステナブルな社会／事業に寄与する経営基盤の強化

- サステナブルな生産性の高いものづくり
- 働きがいのある職場づくりと人材育成
- 公正かつ透明性の高いガバナンス体制

© YASKAWA Electric Corporation

TCFDシナリオ分析で見えたリスク・機会

・TCFD提言に沿って、気候変動が当社主要事業に及ぼすリスクと機会を分析した結果、財務への影響はリスクによる売上減少よりも、機会による売上増加のほうが大きいことが判明

リスク・機会要因に関する事業影響

リスク／機会	移行／物理	要因	影響	評価※
リスク	移行	炭素価格	• 各国政府による炭素税の導入による、燃料調達コストや材料調達コストの増加	大
		各国の炭素排出政策	• 排出権取引の導入や排出規制の強化に伴い、グリーン電力購入等のコスト増加	中
		省エネ、低炭素化	• 電動化、EV化等に伴う関連資材不足や輸出規制等による価格高騰および入手困難による生産影響	大
		リサイクル規制	• プラスチック規制等による、代替材料等採用に伴うコストの増加	小
		低炭素技術の普及	• 省エネ要求の高まりを背景とした、製品の省エネ性能競争激化によるR&D等投資コストの増加	中
		投資家、顧客の行動変化	• 環境対応が進んだ企業への選好の発生による対応コストの増加 • 情報開示、調達に関する環境配慮の対応遅れによる企業評価の低下およびビジネス機会損失	小
	物理	平均気温の上昇	• 自社工場の空調エネルギー増加によるエネルギーコストの増加 • 海面上昇により水災リスクが許容値を超えた生産拠点の移転の必要性	中
		異常気象の激甚化	• 台風・竜巻・洪水による、操業停止・生産減少・設備の復旧への追加投資	大
機会	移行	省エネ、低炭素化	• 省エネの必要性が高まり、FA機器および産業用インバータの需要が増加 • 工場・設備の生産性向上・省エネ性能を高めるソリューションのビジネス機会が拡大 • FIT政策のインセンティブ等により、太陽光発電や風水力・地熱・バイオマス発電設備の需要が拡大	特大
		投資家、顧客の行動変化	• 環境貢献ビジネスの拡大により投資家の評価が向上し、ESG投資の増加、企業価値の向上	小

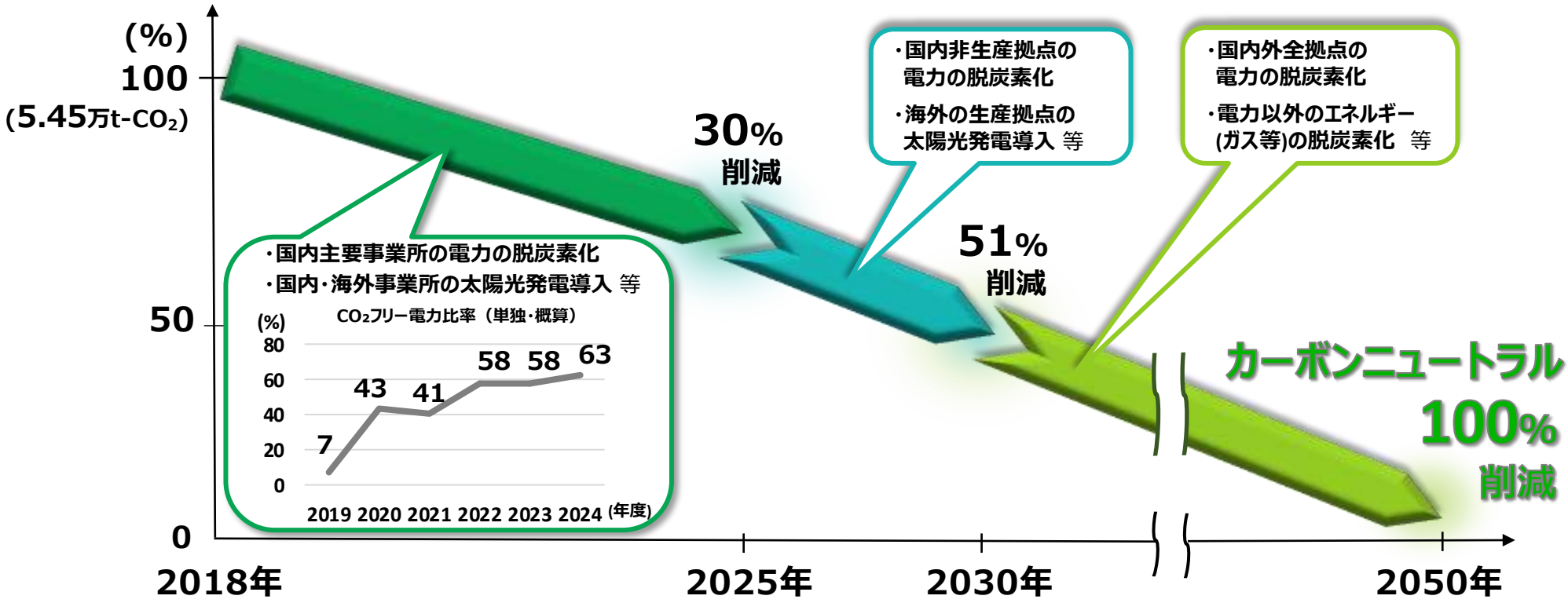
※ 評価における「小」「中」「大」「特大」の定義
小：1億円未満、中：1～10億円、大：10億円超～100億円、特大：100億円超

© YASKAWA Electric Corporation

カーボンニュートラルに向けた取組みと達成に向けた見通し

・2050年にグローバルの事業活動に伴うCO_2*1排出量（スコープ1+スコープ2*2）を実質ゼロにするとともに、2030年の同CO_2排出量を2018年比で51%削減する目標を「2050 CARBON NEUTRAL CHALLENGE*3」と題し発表
（2021年3月発表、2022年5月改定）

・実現に向け、積極的に環境投資を実施



*1 二酸化炭素およびその他温室効果ガス（フロン等）を含む
*2 スコープ１は、主に燃料使用に伴う排出（直接排出）。スコープ２は、購入した電力・熱の使用に伴う排出（電力会社等による間接排出）
*3 2050年に当社グループのグローバルでの事業活動に伴うCO_2排出量を実質ゼロにする目標

© YASKAWA Electric Corporation

独自の環境指標「CCE100」

- 2025年に当社製品によるCO_2削減貢献量を当社グループによるCO_2排出量の100倍以上とする独自の環境指標「CCE100*」を推進しており、2023年度に2年前倒しで目標を達成
- 生産活動（グリーンプロセス）に伴う環境負荷低減と、当社製品（グリーンプロダクツ）を通じた世界中のお客さまの環境負荷低減への貢献の両輪で推進している

* Contribution to Cool Earth 100の略

$$\frac{\text{製品を通じて削減する}CO_2}{\text{自社で排出する}CO_2} \geq 100 : \text{CCE100}$$

（2025年に100倍以上の貢献）

グリーンプロダクツ例

インバータ

マトリクスコンバータ

高圧インバータ

太陽光パワーコンディショナ

PMモータ

ロボット

© YASKAWA Electric Corporation

取締役会･監査等委員会･任意の諮問委員会の構成

- **監査等委員会設置会社の体制を採用**

取締役会の構成およびスキルマトリックス

氏名	役職名	性別	属性	当社が各取締役に特に期待する分野*2						
				企業戦略 経営戦略	ESG・サステナビリティ	財務会計	法務	営業 マーケティング	製造 研究開発・DX	グローバル
小笠原　浩	代表取締役会長	男性		○	○			○	○	○
小川　昌寛	代表取締役社長	男性		○	○			○	○	○
森川　泰彦	取締役 上席執行役員	男性		○	○	○	○			○
真茅　久則	社外取締役	男性	社外 独立	○	○			○	○	○
生山　武史	取締役 監査等委員	男性	監査等委員	○	○					○
松橋　香里	社外取締役 監査等委員	女性	監査等委員 社外 独立	○	○	○				○
西尾　啓治	社外取締役 監査等委員	男性	監査等委員 社外 独立	○	○			○	○	○
穂高　弥生子	社外取締役 監査等委員	女性	監査等委員 社外 独立	○	○		○			○

男性　女性　　●議長／委員長　○構成員

社外

会社法第2条第15号に定める社外取締役

独立

東京証券取引所の定めに基づく独立役員

※上記一覧表は、各取締役の有する全ての知見を表すものではありません。

© YASKAWA Electric Corporation

4. ソリューションコンセプト
i³-Mechatronics

© YASKAWA Electric Corporation

i³-Mechatronics コンセプト

integrated	統合的
intelligent	知能的
innovative	革新的

データ活用による
メカトロニクスの進化

新たな
産業自動化革命
の実現

© YASKAWA Electric Corporation

お客さまの経営課題の解決に向けた安川電機のソリューション

i³-Mechatronics

経営課題

スマート工場の実現

（ロボット・自動化技術の活用/AI・ビッグデータの活用）

- 変種変量生産への対応
- 部品在庫や仕掛品の削減
- 生産リードタイムの短縮
- 設備故障の予防
- 検査工程の属人化解消
- 品質の向上(不良原因の特定)

i³-Mechatronics
アイキューブ メカトロニクス

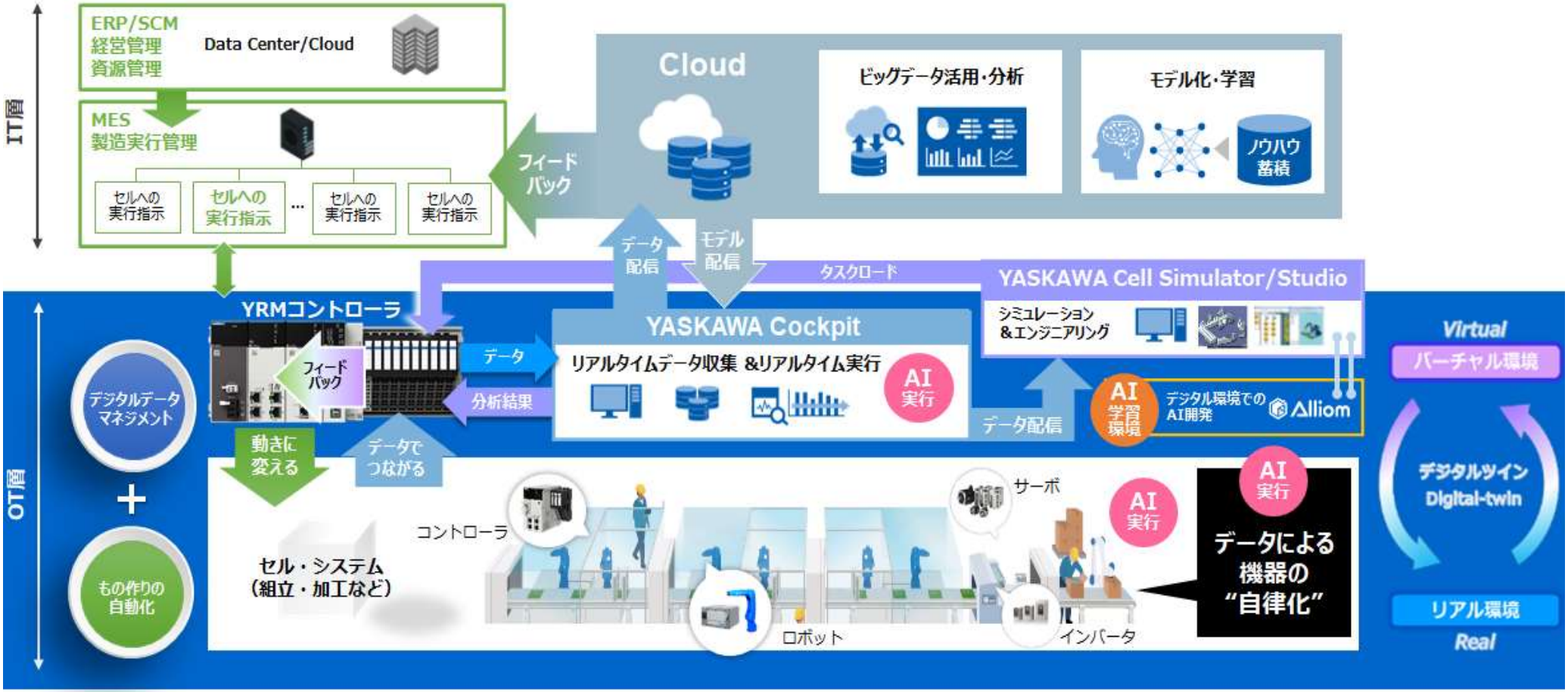
これまで、安川電機はお客さまが日々直面している生産現場の生産性向上と高い品質要求に対し、
サーボ、インバータ、そしてロボットといったメカトロニクスの技術と製品で、
自動化など多くのソリューションを提供してきました。
i³-Mechatronics は、自動化ソリューションに「デジタルデータマネジメント」を加え、
お客さまとともに、生産現場から経営課題の解決に貢献いたします。

FAソリューション　モーション&データ　データソリューション

© YASKAWA Electric Corporation

i³-Mechatronics が実現された工場

- 工場のセルやシステムの機器や装置を**integrated**(統合的)でデータを視える化し、IT層につなぐ
- 収集したデータを**intelligent**(知能的)に分析・解析し活用
- 稼働している設備の向上や生産品質の安定といった**innovative**(革新的)な状態を実現し、お客さまが目指すスマート工場化に向けての課題解決に貢献



© YASKAWA Electric Corporation

YASKAWA

© YASKAWA Electric Corporation